

令和8年度 札幌市立柏丘中学校「学ぶ力」育成プログラム  
 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：34005

「学ぶ力」	
成果	課題
◇生徒アンケートよりICTが探究のツールとして既に日常化していること、自律的に学ぼうとする意欲の高まりが見られる。また、他者との協働が学びの質の向上に良い影響を与えつつある。さらに、「最後までやり遂げる」「失敗を恐れず挑戦する」などのような、情意面の肯定的な回答も8割を超えた。 ◇総合的な学習の時間や行事の時間を使いながら、課題を解決するための方策を自分で考えることができるようになってきた。 ◇共通指標から「振り返ったことを、次に生かそうとしている」生徒が増えてきている。	◇授業時に振り返りの場を設定している教科が増えてきているが、学習効果が上がっているとはいえない状況である。 ◇アンケートより、異なる意見をもつ人と積極的に関わることに興味はあるが、自分の意見を進んで発表することは苦手である。 ◇共通指標から「時間の使い方や計画立て」を苦手としている。手帳のよりよい活用が必要である。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇他者の考えに対して非常に肯定的で、受容的な態度をもっている一方、自分自身の考えを他者に承認してもらおうプロセス（発信）には課題が見られる。 ◇共通指標から「自分が必要とされている」等の項目において、肯定的な回答が低めである。 ◇交流や発表の場を意図的に設定し、相互承認の機会を増やし、「自分の考えが誰かの役に立った」という成功体験を積み重ねる。また、異学年との交流を行うことで相互評価の場を設けることで「自己肯定感」を高めることが重要である。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 **自律的探究力**

課題探究的な学習の推進 に向けて：「子どもが主役の学び」	さっぽろっ子自治的な活動の充実 に向けて：「本物の経験」
◇工夫の余地の設定：探究の過程において、全ての子どもが「自分ならこうしたい」と試行錯誤できるように、学習の進度や表現方法に選択肢のある場を意図的に設定する。 ◇研究主題の具現化：「自ら考え、対話で広げる」授業研究を通じ、アナログでの記述指導を徹底することで、ICT活用時の発信・表現力の底上げを図る。	◇「～したい」を形にする参画：学級・学年・学校、そしてパートナー校（小中連携）の諸問題を話し合いで解決する機会を創出する。 →生徒会を中心とした柏丘憲章の作成・実施により、自分たちの意思を実現し、問題を自分で解決しようとする気持ちを醸成する。 ◇社会に生きて働く実践：白石区小中学校のインターンシップ（旧白石でっち奉公）や地域活動など、多様な他者と合意形成を図りながら共同して活動を進めることで、学校内では得られない「社会を動かす本物の経験」を積ませる。
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
◇「課題探究」と「自治活動」を貫くICT活用の3つの柱 1 思考の「可視化」：自分の考えを可視化し、客観的に振り返るツール（学びのコントローラー）として活用する。 2 「アナログとの役割分担」：じっくり書くのはアナログ、みんなでひろげるのはICTなど、使い分ける。 3 「自律と自治」：ICTを、一人一人の「自分の学び」を助け、クラスや学校という「仲間との生活」を良くするための道具として活用する。	

<本プログラムの実行に向けて>

